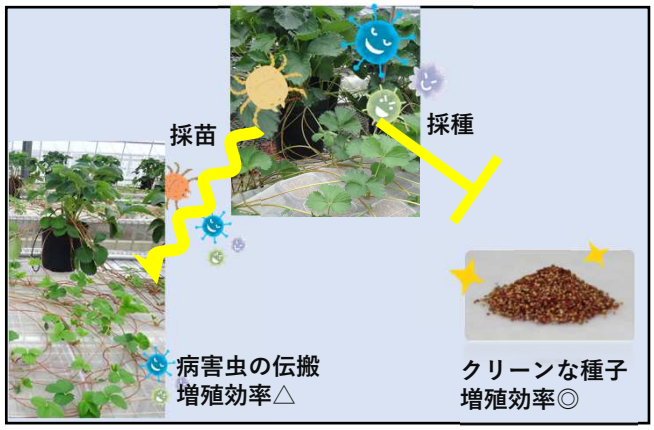
国際競争力強化技術開発プロジェクト
日本品種の優れた品質と輸送性を持つ輸出向け
種子繁殖型ジャパンブランドイチゴの開発
【研究概要図】

１．研究目的

高輸送性と四季成り性・病害抵抗性を有する種子繁殖型F1イチゴ系統を開発し、採苗不要・作期延長・農薬類使用軽減により増収・省力化を実現し、経営の安定化、大規模化、新規参入を促し、輸出産地への普及により海外市場でのジャパンブランドの確立と輸出量増加に貢献する。

２．研究背景

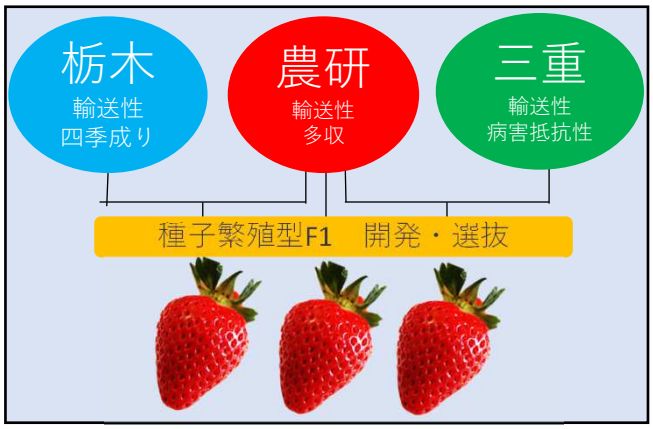
海外市場で日本のイチゴは品質が良く人気があるが、供給量の少なさ、高価格、残留農薬規制、輸送の傷み等が課題である。また、栄養繁殖性のため親株からの病害虫の伝播、収穫と競合する育苗労力が多大で栽培面積が減少している。その解決策として、輸送性が高く四季成り性、病害抵抗性の種子繁殖型F1イチゴの開発を行う。



栄養繁殖型(左) と種子繁殖型(右)の育苗

３．研究内容

①種子繁殖型F1系統の作成のため、自殖固定系統を選定する
②輸送性が高く、四季成り性、病害抵抗性を有する種子繁殖型F1系統を開発する
③F1系統および親系統の品種識別のためのマーカー情報を取得する



自殖系統の相互提供による高輸送性F1の開発

４．達成目標・期待される効果

達成目標

・輸送性が高く、四季成り性、病害抵抗性を有する種子繁殖型F1イチゴを3系統以上開発する
・F1系統および親系統の品種識別を可能にする

期待される効果

・増収・省力化により生産の安定、経営拡大、企業参入が容易になり国際競争力の高い経営体育成に繋がり輸出量が増加する
・育成者権利の侵害の抑制

研究代表機関：農研機構野菜花き研究部門

共同研究機関：栃木県農業試験場、三重県農業研究所